

## 核セキュリティ・サミット2016

### 輸送セキュリティに関する共同声明

#### 導入

2014年3月24日－3月25日にオランダのハーグで開催された第3回核セキュリティ・サミットの機会に、輸送セキュリティ・ギフト・バスケット参加国（フランス、日本、韓国、英国、米国）の首脳は、核物質及びその他の放射性物質の輸送セキュリティの更なる強化に向けた共同作業に関するコミットメントを表明する共同声明を発出した。

2014年共同声明の中で、同ギフト・バスケット参加国は、全ての輸送モード（陸上、鉄道、海上、及び航空）についての机上演習の実施を検討する意図を表明し、IAEAにおける核セキュリティ・シリーズ文書の作成に積極的に貢献するため、上記の活動のグッド・プラクティスを、機微情報を保護しつつIAEAや他の国々とも共有することを、他の活動とともに提案した。参加国は、さらに、新規の参加国、特に核物質の輸送に関し経験がある国の参加を歓迎する旨表明した。

2015年12月1日－3日、上記5か国は、カナダ、ハンガリー、カザフスタンの参加を得て、東京で会合を行い、2014年共同声明を継続して実施していくことにコミットした。さらに、日本、カザフスタン、英国及び米国は、他の参加国の協力を得て、陸上、鉄道、海上及び航空の輸送モードについての4つのグッド・プラクティス指針を作成した。これらの指針はそれぞれ、リード国の実施方法に基づいており、各々の指針が強調するテーマは指針ごとに異なる。これら4つの指針は、これらの国々が、それぞれの輸送モードについての経験と知見に基づき、各国制度においてどのように関連する国際的文書を実施するかを例示となる。

\* \* \*

注：モロッコとスペインは、本声明に参加し、国家がどのように放射性物質の海上輸送のセキュリティに関する義務を果たし、国際的な勧告を考慮するかの実践的な例として、両国が2015年10月にIAEAの協力を得て実施した机上及び実動演習である「アフリカへの扉」について強調した。

### イニシアティブ

2016年3月31日ー4月1日にワシントンDCで開催された第4回核セキュリティ・サミットの機会に、オーストラリア、カナダ、チェコ共和国、フィンランド、フランス、ハンガリー、イタリア、日本、カザフスタン、モロッコ、スペイン、韓国、タイ、英国、及び米国は、核物質及びその他の放射性物質の総合的な輸送セキュリティの更なる強化への意思を再確認し、この点において以下のコミットメントを表明する。

- IAEA 及び「核テロリズムに対抗するためのグローバル・イニシアティブ (GICNT)」を通じて各国の事例をさらに共有する。この点において、本共同声明に添付する4つの「グッド・プラクティス指針」は、各国がいかに国際的な義務を履行し、国際的な勧告を考慮できるかの実例を示している。
- 2016年核セキュリティ・サミット後に核物質の輸送セキュリティに関する義務を履行するため、各活動の調整や指針文書の作成を行う中心的機関としての IAEA を積極的に支持するとともに、GICNT 及び「大量破壊兵器・物質の拡散に対するグローバル・パートナーシップ (GP)」が核活動を進展、実施していくことを支援する。

(了)